## Y8-6

### エアウェイスコープを用いた気管挿管について

石巻赤十字病院　2年目初期臨床研修医[1)]、
石巻赤十字病院　麻酔科[2)]
○長谷川　哲也[1)]、入間田　悌二[2)]

エアウェイスコープ（AWS）は2006年7月に発売された新しい気管挿管用の喉頭鏡で、一般名称はビデオ硬性挿管用喉頭鏡という。イントロック®と呼ばれるブレードは挿入が容易で、その先端に位置するCCDカメラと本体部のカラー液晶モニターにより、喉頭の観察と気管チューブ挿入を容易に行うことができ、通常の、また挿管困難症例の気道管理に、今後重要な役割を果たしてくると考えられている。今回、エアウェイスコープを用いて気管挿管に成功した症例とともに、エアウェイスコープの利点や今後の課題などについて文献的考察を含め報告する。

## Y8-7

### 超高齢にて発症したBochdalek孔ヘルニアの1例

山田赤十字病院　外科
○金井　弘次、藤永　和寿、楠田　司、宮原　成樹、
高橋　幸二、松本　英一、藤井　幸治、奥田　善大、
山岸　農、村林　紘二

今回われわれは、超高齢にて発症したBochdalek孔ヘルニアの1例を経験したので報告する。症例は96歳、女性。4ヶ月程前に左下腹部痛あり近医受診され、CT・胸部単純写真にて左横隔膜ヘルニアと診断されている。注腸造影では横行結腸の胸腔内への脱出を認めた。来院9日前に左上腹部痛を自覚し嘔吐を認め、当科入院となった。保存的加療にて症状は軽快したが、胃透視にて胃体部が胸腔内への脱出しており、食事摂取不能のため、胃と横行結腸が胸腔内へ脱出したBochdalek孔ヘルニアの診断で第4病日に手術となった。経腹的にアプローチし、Bochdalek孔より胃体部・大網・横行～下行結腸・脾臓の脱出を確認した。血流障害を認めなかったため、腹腔内へ還納し直接縫合閉鎖を施行した。本症の如く96歳での初発手術症例は稀と考えられ、若干の文献的考察を加え報告する。

## Y8-8

### 竹串による消化管穿孔の1例

京都第二赤十字病院　救急部
○巴里　彰吾、飯塚　亮二、石井　亘、小田　雅之、
水谷　正洋、荒井　裕介、上野　健史、仲田　真由美、
鬼頭　由美、小田　和正、鈴木　たえ、篠塚　健、
檜垣　聡

症例は74歳、女性、夕食後嘔吐を認めた。その後嘔吐が続き悪寒出現し救急要請され当院救命センターに搬入された。当院搬入時　意識レベル　清明、悪寒発熱を認め腹部全体に圧痛を認め、腹膜刺激症状を認めた。腹部CTにて回盲部より数10cmとみられる部位に異物を認め腸管壁に気胞を少量認めた。以上より、異物による小腸穿孔と考え緊急開腹手術を施行した。
開腹所見は串により回盲部より約100cm口側の小腸に串が小腸を貫くように刺さっていた。この穿孔部を含め小腸を切除し吻合した。術後は順調に経過し退院となった。異物誤飲による消化管穿孔は高齢者に多いとされている。
今回我々は竹串による消化管穿孔の1例を経験したので文献的考察的考察を加えて報告する。

## Y8-9

### 外傷性脾損傷、腎損傷に対しダメージコントロールにて救命できた一例

京都第二赤十字病院　救急部
○荒井　裕介、石井　亘、飯塚　亮二、小田　雅之、
水谷　正洋、巴里　彰吾、上野　健史、仲田　真由美、
鬼頭　由美、小田　和正、鈴木　たえ、篠塚　健、
檜垣　聡

症例は18歳、男性、大型バイク2人乗りで走行中、自損転倒し受傷。フルヘルメットを着用していたが中央分離帯を越えてバイクより約10m飛ばされた。後部者が救急要請し当院救命センターに搬入された。当院搬入時　意識レベルGCS　E4V5M6 Primary SurveyにてA Bに異常をみとめず血圧77/50mmHg　HR100　で末梢冷汗湿潤であった。FAST陽性、急速輸液にて血圧107/50mmHgとなったため、腹部造影CT施行した。腹部造影CTにて外傷性脾損傷、腎損傷による腹腔内出血を認めた。腹部血管撮影施行し脾動脈本幹、腎動脈本幹に血管塞栓術施行しのち緊急開腹術施行した。腎摘、脾摘術施行後バキュームパッキング施行し閉腹した。ICU入室後、低体温、アシドーシスを補正し全身状態が安定化したのち、翌日再開腹しpackingを除去後残りの損傷部位を修復および止血し閉腹した。
今回我々は鈍的腹部外傷による脾臓損傷、腎損傷に対しダメージコントロールにて救命できた一例を経験したので文献的考察的考察を加えて報告する。